

講義名	金融論（経済学部）			授業形態	
担当教員	内山 勝久	開講期・曜日・時間	前期 水曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
この授業は、金融論の入門レベルの講義を行い、経済学部の学生が最低限身につけるべき知見の習得を目的とします。 経済活動においては財・サービスの取引と並んでお金の流れやお金の取引（金融）が重要な役割を果たします。金融に関する知識は社会生活において不可欠ですが、大学生は社会人としての経験に乏しいのでピンと来ない部分も多くあるかもしれません。 授業では、皆々の生活に身近な金融商品の特徴の説明から始めて、金融システムの役割、金融システムやマクロ経済を安定化させるための政策などについて解説・検討し、金融活動を通じた経済の仕組みを学びます。各受講生が卒業後の職業生活で活用できるように、企業金融に関するトピックスについても採り上げる予定です。

到達目標
各受講生が、 (1) わが国の金融システムや企業金融についての基本的なしくみと機能を学び、現代社会における金融の意義と公共性について考察できるようになること、 (2) 金融に関する新聞記事やテレビニュースを理解して、経済社会に与える影響を考察して説明できるようになること、 (3) ライフニングに変化する現実の経済を金融の側面から観照して自分なりの見解を持ち、将来の経済の動きに対して展望を持ったり課題の解決策を提案できるようになること、 を目指す。

提出課題
・中間課題として、期中にレポートを提出してもらう予定です。また、期末には期末レポート課題を提出してもらいます。詳細については授業内で説明します。 ・授業の終了時に、簡単な復習問題（クイズ）を出すことがあります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
・提出された課題については、授業内でコメントしたり、授業の内容に反映する予定です。

評価の基準
・中間レポート課題40%、期末レポート課題60%の比率で評価します。 ・授業内容に関する確な質問や優れたレポート、復習問題（クイズ）の提出状況に対しては、満点を超えて加点評価します。

履修にあたっての注意・助言他
・この授業は「金融資産の運用方法」（株式投資やFX取引など）を解説するものではありません。そう考えている学生には期待外れの退屈な授業となるでしょう。履修はお勧めしません。 ・確実な金融制度や金融市場の仕組みを理解するために学ぶべきことは多岐にわたりますので、授業で扱う情報量は多くなります。多少の計算技術も必要になります。膨大な情報を整理して理解を深めるためには授業での集聚力と授業後の復習が極めて重要になります。 ・関連する科目に「生活金融論」「教養特選Ⅰ（生活のための金融知識）」「業界研究（金融）」「業界研究（証券業）」などがあります。 ・より詳細的に金融を学びたい学生には「金融政策論」や「国際金融論」の履修を勧奨することを推奨します。 ・スマホで授業に関連関係サイトの閲覧に慣れることは他の学生の学習意欲を低下させますので、断っていただく（集聚力を維持してください）。

教科書				
,特定の教科書は使用しません。				

参考図書				
・金融論（第3版）（ベーシックプラス）	家森信善	中央経済社	2,420	9784502415913
・入門 企業金融論	中島真志	東洋経済新報社	3,080	9784492654682
・金融入門（第3版）	日本経済新聞社【編】	日経文庫	1,045	9784532114213

その他
・担当教員が作成した資料を使用して授業を進めます。資料（PDFファイル）は授業支援システム経由で毎回配布します。 ・授業では上記の参考図書を断然に参照する予定です。授業の復習に有益ですので、入手することを推奨します。 ・その他の参考図書は授業中に必要に応じて適宜紹介します。
授業計画

第1回	イントロダクション： 授業のねらいや金融の初歩的な考え方について
第2回	金融システムと金融仲介機関の役割： 金融システムの役割と銀行の特徴について
第3回	銀行以外の金融機関： 協同組織金融機関や証券会社、保険会社などの特徴について
第4回	間接金融型の金融商品： 貸付や保険商品などの特徴について
第5回	直接金融型の金融商品： 公社債や株式などの特徴について
第6回	企業の資金調達（1）： 企業活動と資金需要、資金調達の形態について
第7回	企業の資金調達（2）： 借入金や債権発行による資金調達について
第8回	企業の資金調達（3）： 株式発行による資金調達について
第9回	貨幣： 貨幣の定義や機能、貨幣と物価の関係について
第10回	金利： 金利に関するさまざまな考え方や債券価格との関係について
第11回	為替レート： 円高・円安、通貨制度、為替レートの決まり方について
第12回	金融規制： 金融システム安定化のための制度や規制について
第13回	金融政策の基礎と日本銀行： マクロ金融政策の目的や中央銀行の機能について
第14回	金融政策の基本手段と新しい展開： 金融政策の手段やメカニズムについて
第15回	授業の補足と全体のまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
・授業前に、事前に配布された授業資料を目を通し、授業内容に関する自分なりのイメージを持っておいください（その上で授業に臨むこと）。前述の参考図書の該当箇所を一読すると有益です：約1時間/回。 ・授業終了後は、記憶が鮮明なうちに復習して、課題にも取り組んでください（復習してわからなかった点は質問してください）。前述の参考図書を併読すると理解がより深まります：約1.5時間/回。さらに、毎回の授業のなかで自分が関心を持ったトピックについて新聞や経済雑誌、信頼できるウェブサイトなどでより詳しく調べて、自分の問題意識を醸成してください：約1.5時間/回。 ・また、新聞やテレビの経済ニュースを毎日チェックすることは金融や経済の理解力を高める上で重要ですので実践してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
この科目の「到達目標」を達成することで、 (1) 経済学部経済学部の卒業は、卒業時に身につけておくべき以下のような資質・能力が備わります。①金融のしくみを知り、現実の金融問題を理解して見解を持つことで、世の中の動き全般の理解につながり、金融問題を含むする現代の経済社会の問題の考察・分析や新たな課題の発見ができる。②企業金融のしくみやその背後にある金融システムを理解することを通じて、まちづくりなどに必要な資金調達の考え方を身につけ、地域社会の課題解決につながる貢献ができる。 (2) 経済学部経済学部の卒業は、金融が経済活動において重要な役割を果たすことや、金利や為替など日々生成される金融データの性質の理解につながり、金融データを活用した情報の分析ができるようになるといった、卒業時に身につけておくべき資質・能力が備わります。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
・復習問題（クイズ）などにクlickカー（レスポ）ン）を利用することがあります。

実務経験の有無及び活用

備考
